

令和5年度

学校評価表

中間評価 最終評価

東広島市立高屋西小学校

学校教育目標	より確かに より豊かに よりたくましく 伸びる	経営理念	学校力(組織力・教師力・間協力)を高め、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動を推進し、次代を担う「人づくり」を行う。
--------	-------------------------	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
確かな学力	1	主体的に学ぶ児童の育成	わかる授業づくり	高屋西スタイルの徹底	児童の学習意欲 (児童アンケートによる) 【肯定的評価: 85%以上】	85%	87%	102	4	アンケート結果は目標値を達成している(保護者アンケートの結果は68%)。既習の内容を基に学習の見直しを立てたり、課題に取り組んだりする児童の姿が多く見られるようになってきた。	A	・落ち着いて授業を受けていた。また、授業の中で意見交流をしていたり、互いの意見についてよい点を伝え合ったりしていたのがよかった。 どの教科においても、条件を基に文章を書くなどして、文章を読んだり書いたりする活動を多く取り入れていきたい。また、グループでの交流を通して、全児童が理解を深められるようにする。		
					児童の学力の定着状況 単元末テストの平均正答率 【国語 正答率80%以上】 【算数 正答率80%以上】 【理科 正答率80%以上】	85%	77%	91	2	全体的に見ると、算数科に課題が見られる。基礎的な知識は身に付きつつあるものの、発展的な問題に関して苦手な児童が多く見られる。また、正答率が低い児童への手立てが必要である。	B			
			読書活動の充実	図書活動の活用	読む力の向上 【読書冊数: 一人年間20冊以上】	90%	97%	108	4	定期的に学級単位で図書室を活用したり、長期休業前では全児童に宿題として読書を設定したりすることで、図書室を積極的に利用する児童が増えている。新刊の導入も読書意欲を高めているようである。	A			・読書をすることで発想が豊かになる。多くの本を読んでいる児童もいる。期待している。 ・住民自治協議会より本の寄付を考えている。より多くの児童に読んでもらいたい。
豊かな心	2	家庭・地域との連携による豊かな心の育成	自らの生活を創る児童の育成	東広島スタンダードの定着	児童の自己評価(挨拶) (児童アンケートによる) 【肯定的評価 90%以上】	90%	89%	99	3	自分から積極的に挨拶をしていると評価している児童が多い。挨拶をされたら返す児童は増えている。自ら積極的に挨拶をしていく姿勢をもたせていきたい。	B	・今年度は挨拶に重点をおいて取り組んでいるということだが、朝見守りをしていて、一列歩行も挨拶もあまりよくないと感じている。今後の取組「あいさつの木」に期待する。 委員活動を通して、挨拶運動や挨拶プロジェクトを行い、児童の意欲を高めていく。引き続き月2回の教師による挨拶運動を続けていく。	児童が企画した「あいさつプロジェクト」を通して少しでも挨拶をしたいと思え、続けていきたいと思えるような取組を継続していきたい。	
					教師による評価(挨拶) 【肯定的評価 90%以上】	90%	71%	79	2	教師が求めている挨拶に達している児童が少ない。また高学年になるにつれて挨拶を積極的に行うことができていない。今後は挨拶を行うことでどんな良いことがあるのか考えさせていく場面をもたせていく必要がある。	B			
			郷土に愛着と誇りをもつ児童の育成	体験活動の充実	児童の自己評価(郷土愛) (児童アンケートによる) 【肯定的評価 90%以上】	90%	96%	107	4	どの学年も肯定的に評価している。地域行事が可能になり、地域の方々との交流を通して、高屋町に誇りをもつ児童が増えてきているように感じる。また総合的な学習の時間による郷土愛を育む活動の成果であると考えられる。	A			・今後もこの取組を継続してほしい。
健やかな体	3	健やかな体の育成	調和のとれた体力・運動能力の育成	体育授業の工夫	児童の体力測定値 【令和4年度新体力テスト2項目 校内平均値以上】 (反復横とび、50m走)年間2回測定	80%	42%	53	1	今年度のスタート時点では、令和4年度の平均値より上回っているのは42%である。現在、体育の授業の初めにストレッチやサーキット運動に取り組んでいる。	B	・昨年度から外遊びをする児童は増加しない。まずは、前年比10%増加等の目標値を設定してはどうか。 ・本校児童の携帯・スマホの普及率はどのくらいだろうか。情報機器については、これからの社会、知らなくては行けないけれど、知りすぎてもいけない。上手に活用できるように、家庭でも学校でもしていきたい。	現在の取組を継続して実施し、年度末に向けて、柔軟性や瞬発力をつけていきたい。	
					外遊び等の工夫 児童による外遊び週間の設定	外遊び恒常児童 (児童アンケートおよび外遊び週間における実施人数の集計) 【全学年 80%以上】	80%	59%	74	2	外遊びが習慣になっている児童とそうではない児童の二極化が見られる。11月のドッジボール大会、12月の持久走大会、2月の縄跳び大会と3回のクラスマッチを計画中である。			A
			規則正しい生活習慣の意識化	生活の振り返り (小中連携の取組の活用)	児童の自己評価(生活習慣) (児童および保護者アンケートによる) 【肯定的評価 85%以上】	90%	90%	100	3	おおむね目標値に達成している。アンケートには表れていないが、高学年児童の就寝時間が遅いことが課題である。	A			
信頼される学校	4	安心・安全な学校づくり	地域・保護者とともに子供の成長を見守る体制の充実	学校だよりやホームページによる取組の発信 市民ポータルサイトの活用	保護者による評価 (保護者アンケートによる) 【肯定的評価 80%以上】	80%	91%	114	4	毎月定期に発行される学校だよりや、学年だよりに沿ったHPの更新は随時行っている。また、保護者アンケートの依頼や行事のお知らせ、変更のお知らせ等を直接送ることができ、役立っているという回答を得ることができていると考えられる。	A	・引き続き、情報発信に努めていただきたい。	行事等の周知が漏れないように確実に知らせるとともに、HPについての意見を問いつけ、よりよいものへとしていきたい。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示

■自己評価

- 4...目標を上回って達成
- 3...目標どおりに達成
- 2...目標をやや下回って達成
- 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

- A...とても適切である
- B...概ね適切である
- C...あまり適切でない
- D...全く適切でない(N...判定できない)